



令和7年度

7月 三大幼だより

江東区立第三大島幼稚園

令和7年6月30日



三大幼 HPは
こちらから

自然を「感察」する

園長 安田 徳章

6月のある日「わぁ、かわいい」「ごはん食べているよ！」など、気付いたこと、感じたことを発することたちの声が「さんだいむしむしハウス」の中にたくさん響き渡りました。「さんだいむしむしハウス」の中で、幼虫からさなぎになったアゲハチョウが羽化したのです。アゲハチョウがいることに気付いた年長児は、おなかがすいているだろうと、マリーゴールドの咲いているプランターを運び入れたり玄関わきのランタナの枝を少し切って持ってきたりしました。すると、アゲハチョウは年長児が手に持っているランタナの花にとまり蜜を吸ったり、こどもたちの肩や帽子にとまって一休みしたり、文字通り目の前で可愛らしい姿を見せてくれました。

自然に触れることの大切さについて、プロ・ナチュラリストの佐々木洋先生が教員向け専門誌(※1)のインタビューで、「こどもの頃に自然に親しむ三大効能」と呼んでいることをお話しされていました。「三大効能」とは、「多様性を知る」「究極の癒しを得る」「思い通りにならないものの存在を改めて教えてくれる」の三つのことだとおっしゃっていました。そして、周りの大人は、かぐ、触る、聞くことなどの諸感覚を使って自然を楽しむ「感察」となるような言葉をかけることが大切になることもお話しされていました。佐々木洋先生は、今年も本園の「自然発見体験会」の講師として来てくださり、佐々木洋先生と一緒に回った雨上がりの園庭では、まさに、こどもたちにとって豊かな「感察」の時間を過ごすことができました。

ご家庭でも、お子さんと一緒に近所の公園などに行ってみると、身近な自然から様々なことを気づき、感じているお子さんの様子がみられると思います。そして、夏休み中には、同じ場所でも早朝や夕暮れ時などいつもと違う時間に行ったり、帰省先や旅行先などでも自然を感じたりして、さらに「感察」が広がり、感性を豊かにするような体験ができると素敵ですね。

(※1)参考文献『初等教育資料 令和7年5月号 文部科学省』



今月の指導のポイント



年中りんご組

楽しみにしていたプール遊びが始まりました。こどもたちは、絵表示を見ながら自分で着替えや身の回りの始末に取り組んでいます。また、プールでの安全な遊び方を知り、守りながら遊ぶ姿が見られます。プール遊びを通して、水に親しむことや、水の気持ちよさを感じていけるようになっていきます。また、色水遊びやシャボン玉遊びなども取り入れ、様々な形で水遊びを楽しめるようにしていきます。

学級で育てている夏野菜に実が付き始めていたり、みどりのトンネルに植えている植物のツルが伸びたりしています。自分たちで水やりをする中で生長や変化に気付いていけるようにします。また収穫したものを食べる経験も味わえるようになっていきます。

もうすぐこどもたちにとって初めての夏休みが始まります。遊びや生活の場をきれいにしたり、幼稚園で使っていたものを家庭に持ち帰ったりする中で、夏休み後もまた幼稚園で遊びたいという期待につなげていけるようにします。

年長にし組

プール遊びが始まり、水遊びをする際の約束を守り、水に触れる気持ちよさや友達と一緒に水遊びをする楽しさを味わっています。にし組では、自分のめあてに向かって挑戦したり取り組んだりできるようにします。

好きな遊びでは、船作りや身近な自然を取り入れた色水遊びを楽しめるようにし、繰り返し試したり工夫したりして遊べるようにしていきます。こどもたちが考えたことを実現できるようにします。

先日のジャガイモの収穫では、自分たちで収穫することを喜び、大きさや形、においなど様々なことに気付いていました。ジャガイモの数を数えたり、会食をどうするか相談したりしています。ジャガイモパーティーでは、調理や準備をし、自分たちで進める満足感を味わえるようにしていきます。

夏休み前には、保育室や砂場の遊具など、自分たちが使った遊具や生活の場の掃除をし、きれいになる心地よさを感じ、夏休みを迎えられるようになっていきます。